

原爆関係の慰霊碑等の概要(西区内)

平成27年2月 広島市平和推進課

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
大芝01 中広01	大芝学区町民慰霊碑 1977年8月6日 西区大芝公園2番(大芝公園内)	原爆死没者之碑 原爆死没者の33回忌に当り 御霊を慰め御冥福を永遠にお祈りし その遺族と被爆者に寄せられた各方面からの御厚意と御尽力に感謝し あの悲惨な原爆投下を忘れる事なく 世界平和を祈念するためこれを建立す(背面)	財団法人 広島市原 爆被爆者 協議会大 芝学区支 部(15ヶ 町)および 会員外有 志	大芝地区では、小網町(爆心地から900メートル)に建物疎開作業に出動していた住民のほとんどが犠牲になった。こうした犠牲者を慰霊するため、原爆被災者が多く収容された似島に似た形の石で碑を建立したと言われる。
三篠01 中広02	広島県防空機動隊戦病没者慰霊碑 1971年11月 西区三滝山411番地(三瀧寺境内)	慰霊碑	広島モーターサイクル協会MC A	原爆や戦争の犠牲になった広島県防空機動隊員を慰霊するために建立された。なお、この碑と同様に広島県防空機動隊員の犠牲者を慰霊する碑として、「広島県防空機動隊員慰霊碑」(中区)がある。
三篠02 中広03	中広二丁目地区町民慰霊碑 1977年8月6日 西区三滝山411番地(三瀧寺境内)	原爆33回忌追善菩提也	益田マサヨ氏	犠牲になった中広地区町民を慰霊するため、個人が建立した。建立者は、原爆で夫を失い、子どもを戦争で失った。碑の横に建立者の家の墓石があり、その台座に「戦のいけにえとなりし夫と子のおもかげ追ひて掌を合せ生く」と刻まれている。
三篠03 中広04	安佐郡川内村原爆精霊供養塔 1951年5月 西区三滝本町一丁目(三滝墓苑)	原爆精霊供養塔	誓願寺、遺族一同	安佐郡川内村温井(現在の安佐南区川内地区)から中島新町(現在の中島町。爆心地から650メートル)に出動した川内村国民義勇隊の先発隊は、現場で建物疎開作業中に被爆して全滅した。また、後続隊は現場に向かう途中で被爆し、無傷で帰って来た人もいたが、後に原爆症に苦しむ人も少なくなかった。碑は当初、材木町(現在の中島町)にあった誓願寺に建立され、1965年5月、同寺の三滝への移転に伴い現在地へ移設された。なお、この碑と同様に川内村国民義勇隊の犠牲者を慰霊する碑として、「義勇隊の碑」(中区)がある。さらに、義勇隊犠牲者を含めて川内村戦没者戦災死者を慰霊する碑として、「川内村戦没者戦災死者供養塔」(安佐南区)がある。
観音01 観音01	福島地区町民慰霊碑 1977年7月25日 西区福島町二丁目2番(福島生協内科クリニック南東、平和大通り緑地帯)	天に抱くがごとく両手をさしのべし 死体のなかにまだ生きるあり 深川宗俊	福島地区被爆者の会	福島生協病院のケースワーカーらが中心となって町民とともに長年の募金運動の後、建立した。運動の一環として、手記集が発行された。碑の横に名録碑があり、犠牲者241人の名前が刻まれている。
観音02 観音02	観音東地区原爆犠牲者慰霊碑 1961年8月19日 西区東観音町31番(観音橋公園内、観船橋西詰北)	原爆犠牲者慰霊碑	観音町、観音本町一・二丁目、東観音町 各町内会	観音東地区では、多くの住民が市内中心部へ建物疎開作業に出動し、原爆の犠牲になった。こうした人を始め、地区の犠牲者を慰霊するため、建立された(1970年7月5日、再建)。なお、この碑と同様に観音東地区の犠牲者を慰霊する碑として、「観音東地区町民慰霊碑」(西区)がある。
観音03 観音03	観音東地区町民慰霊碑 1965年8月6日 西区東観音町31番(観音橋公園内、観船橋西詰北)	原爆慰霊碑	広島市観音婦人会	観音東地区では、多くの住民が市内中心部へ建物疎開作業に出動し、原爆の犠牲になった。こうした人を始め、地区の犠牲者を慰霊するため、建立された。1975年7月、碑を台座として親鸞聖人像が安置された。なお、この碑と同様に観音東地区の犠牲者を慰霊する碑として、「観音東地区原爆犠牲者慰霊碑」(西区)がある。
観音04 観音04	殉国国民義勇隊慰霊碑(観音西地区町民慰霊碑) 1971年8月6日 西区西観音町2番(西観音町交差点南西、平和大通り緑地帯)	殉国国民義勇隊は建物疎開に出動し被爆された ここに犠牲となられた多数隊員の霊を慰める。昭和46年8月6日 広島市長 山田節男書(側面、背面)	有松喜一氏(寄贈)、慰霊碑建設世話人会	観音西地区では、住民270人が水主町(現在の加古町)の県庁付近(爆心地から900メートル)へ建物疎開作業に出動し、全員犠牲になった。こうした犠牲者を慰霊するため、建立された。
南観音01 観音05	山陽中学校職員生徒追悼碑 1957年8月6日 西区観音新町四丁目12番5号(山陽高等学校内、2号館と3号館の間)	碑に誌す 昭和20年8月 原爆による殉職者学校長外職員17名 犠牲者生徒486名いまここに集いて安らかに眠る その追憶 新たに尽きるときなし さわれ 歳月流れて13年 校運益々隆昌 先猷に応え 正に創立50周年の盛儀を迎え 往昔を離れ 我等と共に 平和の学園を護り給うしとて 茲に学園関係者相計りこの碑を立て 篤く供養を献ぐ。昭和32年8月6日 学校法人石田学園 山陽中・高等学校(背面)	石田学園 山陽中・高等学校	山陽中学1年生約410人は、雑魚場町(現在の国泰寺町一丁目。爆心地から1.2キロメートル)や天神町(現在の中島町。爆心地から400メートル)に建物疎開作業に出動し、そのほとんどが犠牲となった。また、当時、同校は、宝町(爆心地から1.2キロメートル)にあり、倒壊した校舎の下敷きになって亡くなった教職員・生徒もいた。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-232-9156)で)

地区 小学校区 中学校区	名称 建立年月日 所在地	碑文、追悼歌(注)	建立者	建立経緯・来歴等
己斐01 己斐01	被爆者の慰霊碑 2010年7月31日 西区己斐上二丁目1番1号(己斐小学校内、グラウンド南東)	祈り 原爆の 閃光にやかれ 己斐の地に逃れてきて 誰にも看取られず 茶毘にふされた人々の 無念の思いを 決して忘れません(台座)	己斐小学校に原爆のモニュメントをつくる会	被爆直後、己斐国民学校(現在の己斐小学校)は救護所となった。校庭で茶毘に付された2千人の犠牲者を慰霊するため、元児童が呼びかけて寄付金などで碑を建立した。このモニュメントは、「千羽鶴」「五大陸」「地球儀」「放射能標識」そして「被爆した広島」をテーマにデザインされた。999羽の鶴で五大陸を表現し、1000羽目の鶴と地球儀を組み合わせた構成になっている。放射能標識は旧広島市役所庁舎の被爆石で表し、今なお放射線の被害に苦しんでおられる被爆者の思いが込められている。「被爆した広島」は茶毘に付された学徒動員の方の形見のボタンや溶けたガラス瓶、食器、被爆した屋根がわらなどで原子爆弾の惨状を伝えている。己斐小学校で茶毘に付された方々への鎮魂と、これからの日本を背負っていく小学生が世界平和の心を持つことを祈念して制作された。 ※見学する場合、事前連絡必要(見学希望日時、代表者氏名、見学者数、連絡先を電話(082-271-4208)で)
庚午01 庚午01	庚午・高須地区町民原爆慰霊碑 1959年12月 西区庚午北二丁目14番(庚午第一公園内)	原爆慰霊碑 原爆慰霊碑の由来 太平洋戦争末期の1945年(昭和20)8月6日、突如人類初の原子爆弾が広島市上空で炸裂、一瞬のうちに十数万人の命を奪い去ると同時に多くの負傷者が出ました。避難する途中この地で力尽き亡くなられた被災者は、地元高須庚午北町住民により茶毘に付され、ここに埋葬されました。1948年(昭和23)遺骨の発掘が行なわれ、同年8月6日192柱が平和公園内の原爆供養塔へ納骨されました。1959年(昭和34)恒久平和の願いを託して、書家 堀川岳陽先生揮毫による慰霊碑が高須、庚午北町民の浄財により建立されました。建立50周年、慰霊碑改修工事にあたり碑の由来を記すとともに、往時を偲び改めてあまたの原爆犠牲者に哀悼の意を表します。2010年(平成22)8月5日 高須町内会 庚午北町内会(説明板)	高須・庚午北町町内会	市内からこの周辺まで逃げてきて亡くなった人々を慰霊するため、建立された。当時、1回何十人と火葬したと言う。1946年に建立した木碑が1959年の台風で倒れ、その後現在の碑を建立した。2010年8月5日、碑建立50周年を迎え、碑の説明板を新たに設置するなど改修工事を行った。
草津01 庚午02	護法の碑 1963年11月23日 西区草津本町15番14号(教専寺境内)	昭和20年8月6日の朝わが教専寺総代世話係12名の方が、本尊御宮殿及び須彌壇の御迎えに、当時の市内天神町教念寺へ出向かれ、爆心地より620米の現地で、原爆によって一瞬の中に全員殉死されたのである。ここに、親鸞聖人直筆の教行信証阪東本より護法の文字を頂き、護法之碑を建立し12名の功績を讃えと共に、開基より400数年にわたる総代世話係の御苦勞に謝意を表すものである。昭和38年11月23日 第16世住職 故選一法(背面)	教専寺	天神町(現在の中島町)は爆心地から近距離に位置していたため、原爆の直撃を受けて全壊・全焼した。天神町にあった教念寺へ出かけていた教専寺の総代世話係12人と役僧1人が犠牲になった。碑背面には、犠牲者13人の名前が刻まれている。
草津02 庚午03	草津南町国民義勇隊追悼碑 1981年8月2日 西区草津南一丁目16番(西部埋立第八公園内)	碑文 昭和20年8月6日午前8月15分広島市上空に投下された一発の原子爆弾により市内は一瞬にして阿鼻叫喚の地獄絵と化し 無残に崩壊した瓦礫の焦土の中を蜿々と死の行列が続いた。この日軍の至上命令にもとづく広島市長の指令により出動した か弱い女子100名を含む草津南町国民義勇隊は市内小網町附近建物疎開作業任務中被爆し全員傷つき焼けただれ悲惨さわまる苦悶の果て次々と斃れていった。私ども遺族は痛恨のうちに逝った肉身の無念を想いこのむごたらしい戦禍の再び繰り返すことのない平和への祈りをこめて157名の尊い犠牲を永久に伝へ残すべく記念の碑を建立しここに追悼の意を捧げます。昭和56年8月2日 草津南町国民義勇隊遺族一同。撰文遺族代表 小西ノブ子(横の石碑)	草津南町義勇隊の慰霊碑を建設する会、草津南町国民義勇隊遺族一同	草津南町国民義勇隊は小網町(爆心地から900メートル)へ建物疎開作業に出動し、157人の犠牲者を出した。犠牲者数は当時の町人口の約1割に当たる。横には犠牲者の名前を刻んだ名録碑がある。また、碑文が刻まれた碑の上部には、当時の軍命令の「国民義勇隊出動指令伝達」文書も記されている。

(注)原則、漢数字は算用数字で表記しています。